



北ダッカ市のモデル校に防災資機材を提供する現地職員 (バングラデシュ)
DRR equipment installed at the model school in Dhaka North City (Bangladesh)

要約

- **ミャンマー**では、N連(日本NGO連携無償資金協力事業)の第3年次において、ワーポチャーボ村の防災計画策定に向けた協議会、防災リーダー研修を行いました。
- **フィリピン**では、JICA草の根技術協力事業の成果物を事業のパートナー校に配布しました。
- **バングラデシュ**では、N連事業において、北ダッカ市の学校にオンライン研修を実施。また、同校に防災資機材を提供しました。
- **日本**では、丹波市のスタディーツアー事業の継続が決定、長野市長沼地区の復興支援を開始しました。また、外部講師派遣、インターンシップの受け入れをしました。

Summary

- In **Myanmar**, DRR planning workshops and online training were conducted under the project “Enhancing Comprehensive School Safety in Collaboration with Community in Hinthada Township” supported by Ministry of Foreign Affairs of Government of Japan (3rd year) .
- In the **Philippines**, the project outputs, school DRR manuals were distributed to the partner schools in Cebu Province.
- In **Bangladesh**, online DRR training was conducted at the model school in Dhaka North City, and DRR equipment was installed as a part of the activities supported by Ministry of Foreign Affairs.
- In **Japan**, it was decided that the project in Tamba would be continued this year as well, with support from the Hyogo Voluntary Fund. Another project supporting disaster recovery of Naganuma district has started. Staff members of SEEDS Asia delivered lectures in universities and also accepted an intern.

目次 Contents

ミャンマー.....	2
フィリピン.....	3
バングラデシュ.....	4
日本.....	5
Myanmar.....	8
Philippines.....	10
Bangladesh.....	11
Japan.....	13

【認定】特定非営利活動法人SEEDS Asia

658-0072 神戸市東灘区岡本1-7-7-307

TEL. 078-766-9412 FAX. 078-766-9413

EMAIL rep@seedsasia.org

WEBSITE www.seedsasia.org

FACEBOOK www.facebook.com/SEEDSASIA/

1-7-7-307 Okamoto, Higashi-nada ku, Kobe 658-0072



ミャンマー

教育と防災の拠点となる学校建設から地域の防災力向上まで、ハードとソフトを合わせた包括的な防災を推進しています。

外務省 日本NGO連携無償資金協力事業

「ヒンタダ地区における学校・地域防災支援事業（第3年次）」事業の様子

洪水常襲地となっているエヤワディ地域ヒンタダ地区ワーボチャーボ村を対象地として、シェルター機能を備えた学校の建設と、村と学校の防災能力強化を含めた包括的な学校防災支援を進めています。2020年3月から第3年次事業を開始しており、雨季に入った7月8月の活動は以下のとおりです。

ワーボチャーボ村の防災計画に向けた協議会の継続

学校を地域の避難所とする際、学校本来の役割である教育活動の継続と、避難所としての住民保護の狭間で、主張がぶつかり合うということは世界共通の課題となっています。そこで、ワーボチャーボ村で建設している学校兼シェルターでは、学校/村防災委員会(学校教員と村のリーダーで構成)を中心に、事前協議によって学校と村のリーダー間における合意形成を図り、計画の協働策定、住民への周知を目指しています。

7月9日-10日、8月10日にはオンラインとオンサイトで学校や村の防災計画に向けた協議会を実施しました。村の現状を共有し合うと共に、どのように村をより安全にしていくか、という災害前の対応についての協議に加え、有事の際にどのように住民の安全を守るかという、緊急時の計画について話し合いを始めました。特に、村の早期警報の伝達方法や避難所運営等、誰が何をするのかという学校/村防災委員会の体制や、限りある空間を誰が使用するのか、教室や校舎備品は何をどこまで使用できるのか、そして感染症の予防を含めた空間や動線の在り方等、様々な計画について事前の協議によって合意形成を図っていくことが必要になります。今後も研修と共に協議を進め、各関係者の合意のもと、計画書を作成していきます。



ワーボチャーボ村での防災計画について話し合う校長と村民

ワーボチャーボ村の防災リーダー研修

ミャンマーでも日々のテレビやラジオのニュースで天気予報が放送されています。そうして放送される内容を理解し防災行動に役立てるため、7月7日-8日に気象水文局元職員の専門家を招き、気象リスクの理解とその周知方法の合意研修を実施しました。

8月13日-14日には、新型コロナウイルスや水及び虫を媒介する感染症対策、水質と健康被害についての講義にミャンマー赤十字(MRCS)の職員を、さらに、水質についての講義には村落開発局(DRD)の職員をそれぞれ招聘し、オンラインで研修を実施しました。

尚、新型コロナウイルスの影響で、本来ならばワーボチャーボ村と周辺村の代表者ら合わせて91名を対象に防災リーダー研修を実施するはずでしたが、身体的距離の確保や、集合できる人数の制限を考慮し、30名程度を上限にオンサイトとオンラインで防災研修を実施しています。



ミャンマー赤十字からの専門家による応急処置



フィリピン

学校における災害リスク管理力の向上を目指した取り組みを実践しています。

JICA草の根技術協力事業

「学校防災マニュアル」の配布

JICAの草の根技術協力事業は6月末に終了していましたが、その間に日本で印刷していた学校防災マニュアル(平時の安全点検マニュアルと災害時の対応マニュアル)が完成し、8月にセブの現地パートナーである10校に到着しました。

これらのマニュアルは、本来フィリピンで印刷する予定だったのですが、セブ地域の都市封鎖を受け、一部を日本で印刷の上、現地に配送することになりました。全て、それぞれの学校が関係者との協議を経て作成したオリジナルのマニュアルで、事業の集大成とも言えるものです。

パイロット校としてSEEDS Asiaとともに3年間走り続けてくれた各学校の元にその成果が届き、先生方から嬉しい報告をいただきました。



学校防災マニュアルの表紙



配布されたマニュアルを手にするパイロット校教員



バングラデシュ

学校を拠点としたコミュニティの防災力向上と全市民的な意識啓発を目指します。

外務省 日本NGO連携無償資金協力事業

北ダッカ市における学校を中心とした地域の災害対応能力支援事業

モデルアカデミー校向けオンライン研修の継続

モデルアカデミーという学校をパートナーに、北ダッカ市の学校を中心とした地域の災害対応能力向上モデルの確立を目指す本事業では、6月に引き続き、7月もモデルアカデミー校の教員、保護者向けにオンライン研修を実施しました。

これまでの研修は講義形式でしたが、7月9日の「防災バッグの準備」のセッションでは、ディスカッション形式で意見交換を楽しみながら防災について学びました。地震が起きた時、どのような対応行動をとるか、防災バッグには何を入れるか、そのアイテムを選んだ理由は何かを発表し合い、非常に盛り上がりました。

7月10日は、SEEDS Asia本部職員が学校防災の専門家として研修を実施し、学校防災委員会設置の目的と役割について、日本やアジアでの事例を交えて紹介しました。モデルアカデミー校では委員会を8つのチームに分けて、それぞれの役割分担を決めました。

7月17日は消防局から講師を招いて救命講習の講義とデモンストレーションを提供してくれました。参加した先生から「地域の防災を担うこの学校で貢献できるよう、今後のまちあるきや実地訓練も頑張っていきたい」と意欲的なコメントをいただきました。

7月には下記の研修を実施しました。

日時	内容
7月2日	バングラデシュの防災関連法、都市型災害(火災)
7月3日	都市型災害(冠水、地震)
7月9日	都市型災害(大気汚染)、防災バッグの準備
7月10日	学校防災委員会の組成
7月16日	雨水タンクと消防用ホースの使用方法 消火・消防の基礎知識
7月17日	救命講習とデモンストレーション



オンライン研修の様子

モデルアカデミー校に防災資機材を設置

8月27日、学校長の立会いの下、モデルアカデミー校に消火器や救急バッグ等の防災資機材を設置するとともに、現地スタッフから資機材の使用法について簡単に説明をしました。先生方は各種資機材を手にとって確認し、生徒の命や学校の安全を守っていく決意を新たにしました。そして、ダッカ都市部では珍しい雨水タンクの建設が11月から始まります。



現地スタッフによる資機材の説明



丹波市

兵庫県丹波市の豪雨災害の教訓を地域資源として位置づけ、市内外の交流を促し地域を元気づける活動を目指します。

ひょうごボランティア基金助成事業

ひょうごボランティア基金助成事業採択のお知らせ

SEEDS Asiaはこれまで、丹波市で防災教育やシティプロモーションなどの活動を、地元の方々とともに展開してきました。昨年度はひょうごボランティアプラザの助成を受け、「ESD(持続可能な開発のための教育)防災キャンプ」など、丹波市の魅力を外部の人々にお伝えし、災害に強い子どもの育成を目指すイベントを開催しました。

今年度も、昨年度に引き続きひょうごボランティアプラザの事業が決定しました。今回は、コロナの影響を受けイベントができない中でも、今後の訪問者受け入れに向けてより充実した体験学習を提供できるよう活動します。



長野市 長沼地区

長野県長野市長沼地区の災害復興支援を行っています。

ジャパンプラットフォーム 休眠預金等活用事業：台風15号・19号被災地支援プログラム

「Withコロナ時代」の復興まちづくり支援事業

令和元年台風19号(東日本台風)で被災した長野県長野市長沼地区は、千曲川の破堤によって壊滅的な被害が生じました。被災から半年が過ぎ、被災地は復興・恒久期の段階に移行している中、復興期、復興後のまちの在り方について、重なる協議や合意形成を要しています。

このような中、災害によって地域の拠点を失い、さらには新型コロナウイルスの影響で、地区の復興を話し合うメンバーが一堂に会することも難しい状況にあるという問題について、住民を代表する長沼地区復興対策企画委員会から伺いました。そこで、住民の方々が主体となって情報を収集し、復興に関わる協議・提言を実現するため、SEEDS Asiaはまず遠隔でのコミュニケーションを可能にするツールを提供することとし、タブレット端末とポケットwifiをSEEDS Asiaの事業運営用に2台導入し、7月末に長沼地区復興対策企画委員会のメンバー用に13台届けました。

今後はこうしたタブレット端末を活用した復興リレー講座などを専門家・行政の方々と共に実施して参りたいと思います。



本部

国内の災害復興支援や、国内の講師派遣をしています。

講師派遣（神戸学院大学）

7月13日と20日、神戸学院大学現代社会学部「社会貢献論II」「社会防災特別講義IV」の講義にご招待いただき、事務局長の天津山光子がオンラインで登壇しました。1回目の講義では「アジアで防災のリアルー被災の背景に向き合っていくということ」、2回目の講義では「マルチハザードに備えるためにーコロナ禍で顕著になる地域のチカラ」をタイトルとしてミャンマーの事例を紹介しました。社会防災特別講義の到達目標に対応する形で、開発途上国の現状と課題を理解すること、さらに、世界における日本の国際的立場を理解し、国際協力の意義を説明できることを目的として、なぜアジアで防災・減災の協力が必要なのかということについて説明しました。

1回目の講義では2008年にミャンマーで発生したサイクロン・ナルギスを題材として、なぜ約14万人もの死亡・行方不明者を生み出したのか、当時の状況を振り返りながら災害を生み出す社会背景について理解を促す内容を提供しました。

参加した学生からは、「私たちは災害に向き合っていないといけない状況にあるということがよく分かりました。アジアにおける課題を聞いて現在の状況がとてもイメージしやすく、災害リスクというものが次第に高まってきていると強く感じました。私たちは今後更に災害に対して向き合い、いのちを救うための対策を立てなければならぬと感じました。」といった感想や、「先進国の当たり前は途上国の当たり前とは限らないし、むしろそうでないことのほうが多いと捉えたほうがよいということがよく分かりました。その中で、命を守るということは予想以上に問題も多く大変なことです、見捨ててはならないと感じました」というコメントがみられました。

2回目の講義では、2015年の大洪水からの緊急支援、その後のヒンタダ地区の支援活動を中心に紹介し、コロナ禍で顕著となった今までの防災支援の効果と課題について紹介しました。SEEDS Asiaの取り組みや、活動している国の事情、NPOやNGOの活動について、理解を深める一助になれば嬉しいです。



2回目の講義資料の表紙

講師派遣（神戸大学）

8月17日、神戸大学の大学院生向け「教育開発評価論」の講義1コマを海外・国内事業統括の有馬沙紀が担当いたしました。この集中講義では、終了時に「教育支援の評価を視野に入れ、JICA草の根事業のプロポーザルを完成させる」ことを目標にしており、その中でSEEDS Asiaが実際に提案し採択された草の根事業について具体的な事例を紹介しました。

学生からはたくさんの質問があり、積極的に学ぶ姿勢が印象的でした。

インターンに参加して

SEEDS Asiaではインターンシップの受け入れを行っています。今回は7月までインターンとして活動されていた高野楓己さんに活動を通しての感想、今後の進路についてお伺いしました。

Q1.自己紹介&インターンシップに参加された理由を教えてください。

5月から7月まで、インターンシップとして受け入れていただきました。新潟大学3年、高野楓己です。私は、地元である新潟県三条市が、7.13水害をはじめとし、度々水害に見舞われてきた地域であることから、水災害について興味を抱いてきました。また、東南アジア地域への3度の渡航を経て、途上国支援の現場に立つという目標を抱き、今回、日本およびアジア圏で防災事業を展開する認定NPO法人SEEDS Asiaの活動に携わらせていただきました。

Q2.どのような活動をされましたか？また、活動を通じた感想を教えてください。

インターンシップでは、ミャンマーヒンタダ地区における地域調査レポートの和訳業務を行いました。業務を通じて、事業実施前に住民参加のディスカッションおよび調査を行い、課題を可視化、目標を明確化させることが重要であると、学びを得ました。特にアジア圏では、多種多様な文化・宗教に応じた、地域毎のニーズに合う支援が必要であると考えます。

また、資料や論文を閲読する中で、自然災害リスクに対する地域レジリエンスの強化ならびに飲料水となる井戸水の汚染への対策は、ミャンマーに限らず、アジア圏の多くの地域が抱える共通課題であると認識しました。技術支援に加え、災害や衛生に対する地域住民の意識の啓発および人材育成活動を行い、地域住民自身による安全な地域社会の維持を促す包括的な支援が必要であると、新たな知見を得ることができました。

和訳作業を通じ、英文の読解力および英文を自然な日本語に訳す能力が向上した点も、私にとって、大きな収穫であったと考えています。

Q3. 今後の進路について教えてください。

私は建築学を専攻しており、卒業後は大学院への進学を考えています。これまでは、住民や行政との対話を通じ、建造物の保存や景観の整備を行う、いわば定性的なまちづくりに取り組むことを考えていました。しかしながら、今回のインターンシップを通じ、途上国においては、災害レジリエンスの強化に向けた数理的データの分析およびシステムの構築等、定性的かつ定量的なまちへの対峙が必要であると気が付きました。

また、防災分野での支援にさらに興味を抱いたため、今後は、社会や文化が異なる諸外国、特に、災害リスクの大きいアジア諸国に焦点を置き、災害機構の究明および災害低減技術分野での研究に携わりたいと考えています。今回のインターンシップの経験を活かし、建築単体にとどまらず、水質管理やインフラ整備等、幅広い知見を持ちまちに対峙できる人材となるよう、学習を進めていきます。

(本人原文のまま掲載)



新潟大学工学部工学科
建築学プログラム3年
高野楓己さん

SEEDS Asiaではインターンを募集しています。
ご興味がある方は以下までご連絡お待ちしております！
rep@seedsasia.org



Myanmar Promoting comprehensive disaster risk reduction (DRR) from construction of safe school-cum-shelter to enhanced community disaster preparedness

Ministry of Foreign Affairs, Government of Japan

Progress of the third year of the project “Enhancing Comprehensive School Safety in Collaboration with Community in Hinthada Township”

SEEDS Asia is promoting comprehensive school safety in Wa boet Chin boet village, a flood-prone area in Hinthada township, Ayeyarwady region of Myanmar. The project includes the construction of a school-cum-shelter and DRR capacity building for the school and village. The third year of the project commenced in March 2020, and this time we will report the activities during the rainy season of July to August.

Discussion for DRR planning of Wa boet Chin boet school/village

Initiatives around the world have shown that when using a school as a shelter, conflicts do occur over two functions of the school facilities: the continuation of educational activities, (which is the fundamental role of the school), and the protection of evacuees. To avoid such a problem, when constructing a school-cum-shelter in Wa boet Chin boet village, the school/village DRR committee was established (comprised of school teachers as well as village leaders), to play a central role in consensus building and collaborative planning between the school and village leaders, and to ensure that the village residents are well informed of the decisions.

On 9–10th July and 10th August, online and on-site workshops were held to discuss DRR plans for Wa boet Chin boet school/village. In the workshops, current status of the village was shared and disaster preparedness options to make the village a safer place were discussed. In addition, the discussion was extended to developing a crisis management plan to protect the safety of the residents in case of an unexpected emergency.

In particular, consensus was found to be necessary through prior discussions on various plans such as the organizational mechanism of the school/village DRR committee and the roles of each member in transmission of early warnings or the operation of the shelter, usage of the limited space at the shelter, which classrooms and what and how much school equipment can be used, spatial use and patient flow systems concerning the prevention of infectious diseases and other issues.

SEEDS Asia will continue to facilitate discussions and training in the community and in creating DRR plans based on consensus.



Residents and the school’s head master discussed DRR planning of Wa boet Chin boet village

DRR leader training in Wa boet Chin boet village

Weather forecasts are an integral part of the daily news in Myanmar and it is an important part of DRR plans. To understand the content of such forecasts and use it for formulating DRR actions, SEEDS Asia invited an expert (a former official of the Department of Meteorology and Hydrology) to the training held on 7–8th July, where participants from Wa boet Chin boet village learned about weather risks and how those risks are communicated.

Furthermore, on 13–14th August another training session was held online and online. The participants learned about water and sanitation issues, and infection control against viruses including COVID–19 and vector/water–borne diseases. The lectures were provided by a member of the Myanmar Red Cross (MRCS). Also, a staff member of Department of Rural Development (DRD) instructed the participants about water quality management during the training.

This year, DRR leader training sessions for 91 people, including leaders of Wa boet Chin boet village and surrounding villages, were planned in order to strengthen their disaster response capacities. However, due to the COVID–19 pandemic, it was difficult to conduct the training to all of them due to restrictions and the need to keep appropriate physical distance. Therefore, the number of participants were limited to 30 people and training sessions are being provided online as well as on-site.



First aid was taught by the experts of the Myanmar Red Cross



Philippines

Enhancing school-based disaster risk reduction and management

JICA Grassroots Technical Cooperation

School DRR manuals were delivered to the partner

Although SEEDS Asia’s project in Cebu, supported by JICA, came to an end last June, one of its final outputs – customised disaster risk reduction and management manuals, namely, the School Disaster Mitigation and Preparedness Manual and the School Disaster Response Manual – was delivered to the Pilot Schools in August.

While the manuals were to be printed in Cebu Province, due to the outbreak of COVID-19 and following lockdowns, some copies were produced in Japan and shipped to the schools.



School DRR manual

The manuals are a compilation of the intensive work carried out by the Pilot Schools and their stakeholders, including the Department of Education offices, local government units, Bureau of Fire Protection, Philippine National Police, the communities and many others! It was indeed rewarding to receive thankful messages from the schools and other stakeholders!



Teachers holding delivered manuals



Bangladesh

School-based community disaster risk reduction and city-wide awareness raising

Ministry of Foreign Affairs, Government of Japan

“School-based Capacity Building for Enhanced Disaster Risk Reduction (DRR) in Dhaka North City Corporation” supported by Ministry of Foreign Affairs of Japan (MoFA)

Online DRR training at Model Academy carried out

This project aims to enhance the disaster management capacity of schools and communities in Dhaka North city, and the Model Academy has been selected as SEEDS Asia’s partner in establishing good practices of such initiatives this year. Online training sessions for the school’s personnel and students’ guardians were held in June, followed by more sessions in July.

On 9th July, a session on “emergency bag preparation” was conducted. Sessions are usually delivered in the form of lectures from SEEDS Asia’s local staff to the participants, but this particular workshop was an enjoyable one because they were able to learn about DRR through discussions. It was very exciting for the participants to discuss about what to do in the case of an earthquake, what to put in their emergency bag, and why those items were chosen.

On 10th July, a member of SEEDS Asia Headquarters was invited to participate in the training and explained the purposes of establishing the School Disaster Management Committee (SDMC), and its roles and functions. Some examples of SDMC in Japan and other Asian countries were also shared. The participants decided to have eight teams in their SDMC and assigned designated roles to each of the teams.



Participants learned how to use emergency goods online

Date	Training contents
2 nd July	DRR related laws and plans in Bangladesh Urban disasters (fire)
7 th July	Urban disasters (waterlogging, earthquake)
9 th July	Urban disasters (air pollution) Emergency bag preparation
10 th July	Establishment of a School Disaster Management Committee (SDMC)
16 th July	Operation of a rainwater harvesting system and fire hose reels Fire Safety Training
17 th July	Basic Life Support Demonstration for the participants

Training contents of July

On 17th July, a speaker from the local fire department was invited to give a lecture on first aid, and a demonstration of first aid procedures, for the participants. One of the teachers said, "I am willing to work hard on the coming town watching activity and hands-on training using the basic DRR equipment so that I can contribute to the Model Academy which is responsible for and plays a big role in the DRR of this area."

DRR equipment set up at the Model Academy on 27th August

DRR equipment, such as fire extinguishers and an emergency bag, were installed at the Model Academy (located at Paikpara, Ward 11) in the presence of the school's head master on 27th August.

As SEEDS Asia's local staff briefly explained how to utilize the equipment, the teachers examined them and were motivated even more to protect students' lives and the safety of their school from disasters. The construction of a rainwater harvesting system, which as yet is rarely found in the urban areas of Dhaka, is planned to start in November.



Local staff introduced how to utilize DRR equipment



Tamba city, Hyogo

Promoting community revitalization through learning exchanges about disaster experiences

Hyogo Voluntary Fund

“Study Tour” initiatives to continue

SEEDS Asia has implemented several projects in Tamba city, Hyogo Prefecture, such as disaster risk reduction education at local schools and the “city promotion” initiative to attract visitors from outside the depopulating city. These activities were always conducted in partnership with people of the local community, and last year was a milestone when an event called “ESD (Education for Sustainable Development) – DRR Camp” was held with financial support from Hyogo Voluntary Plaza. In the camping event, many families from other cities were invited to experience rural life and simulation of disaster situations.

All events held last year aimed to endear Tamba city to the participants and contribute to capacity building of disaster-resilient children.

This year, another project was approved by Hyogo Voluntary Plaza. Since the spread of COVID-19 has been preventing us from organizing events, SEEDS Asia and the local communities of Tamba will discuss and enhance the contents in terms of quality and consistency to gain more fans of Tamba.



Naganuma district, Nagano city

Supporting disaster recovery of Naganuma district, Nagano city

Japan Platform support for 2019 Typhoon Faxai and Typhoon Hagibis-affected areas

Disaster recovery and community building in "an era with COVID-19"

Naganuma district in Nagano City, was devastated by the collapse of riverbanks of the Chikuma River, due to Typhoon Hagibis last year (East Japan Typhoon of 2019). Six months after the disaster, the district is now in the stage of disaster recovery where continuous discussions are carried out on how the community can recover and actions to be taken in the future.

However, according to the Disaster Recovery Planning Committee of the district, its members are facing difficulties in organizing meetings and having face-to-face discussions due to the loss of important community facilities in the disaster and the COVID-19 pandemic.

SEEDS Asia provided 13 tablet devices and mobile Wi-fi access to the Disaster Recovery Planning Committee at the end of July, and also installed 2 sets of devices at SEEDS Asia headquarter to support the committee members in collecting information and facilitating online discussions related to disaster recovery. This has enabled them to organize remote communications.

By using these devices, SEEDS Asia is planning to hold a series of lectures related to disaster recovery and community development, in cooperation with experts and government officials.



Headquarters

Disaster recovery projects and dispatch of staff members as lecturers

Lectures delivered in Kobe Gakuin University

On 13th and 20th July, the Executive Director of SEEDS Asia, Mitsuko Otsuyama, was invited by the Faculty of Contemporary Social Studies in Kobe Gakuin University, and gave two consecutive lectures. The first lecture was titled "The reality of DRR in Asian countries: To face what is behind disasters" and the second lecture was on "To be prepared for multi-hazard: Power of communities exposed in the pandemic". The lectures were conducted to accomplish two goals, corresponding to the goals of the courses: one was for the students to understand the current situation and issues of developing countries, and the other, to understand Japan's presence in the world, and explain the significance of international cooperation. Based on SEEDS Asia's experience in Myanmar, she introduced why international cooperation of DRR/mitigation is necessary in Asian countries.

In the lecture on 13th July, Cyclone Nargis which occurred in Myanmar in 2008, was introduced as an example to encourage understanding of the social background of disasters, looking back at the situation at that time, and learning why about 140,000 people were killed or went missing.

One of the students who participated in the lecture said, "I understand that we need to prepare to face disasters. The lecture allowed me to easily imagine the current situation in Asian countries by understanding issues they are facing, and I strongly felt that disaster risks are increasing gradually. We need to face potential disasters and take measures to save lives." Another student said, "I learned that the conditions between developed and developing countries are different, and it is better to think many things are not common between the two. Concerning this point, it is very difficult to save lives once a disaster happens but those differences should always be considered."

In the lecture on 20th July, SEEDS Asia's emergency support in Hinthada district that was hit by a flood in 2015 and succeeding post-disaster support were introduced, and the outcomes and challenges of DRR activities that became more obvious during the COVID-19 pandemic were discussed.

SEEDS Asia hopes that the lectures helped the students deepen understanding of the activities of SEEDS Asia, situations of Asian countries, and initiatives of not-for-profit and nongovernmental organizations.



Material used for
the lecture on 20th July

Lectures delivered in Kobe University

On 17th August, the Chief Operating Officer of SEEDS Asia, Saki Arima took part in one of the lecture series at the graduate school of Kobe University. Interestingly, the final assignment given to the students of this series was the completion of a JICA Grassroots project proposal, with evaluation of education development in mind. Therefore, SEEDS Asia was able to give a very specific example of an actual project under the same scheme.

The students gave a lot of well-thought questions, which impressed us!

Interview with the internship participant

SEEDS Asia offers internship opportunities for the youth who are willing to assist our activities. This time we heard Ms. Funa Takano's internship experience of joining SEEDS Asia from this May to July.

Q1. Please introduce yourself & tell us the reason why you participated in SEEDS Asia's internship program?

My name is Takano Funa, a third-year student at Niigata University. I worked as an intern at SEEDS Asia from May to July. I have been interested in water-related disasters because my hometown has sometimes been flooded, especially the flood which happened on 13th July 2004 caused serious damage there. Also, after three times of trips to Southeast Asia, I have been aimed to get involved in international development. For these reasons, I decided to work as an intern at SEEDS Asia, which conducts disaster risk reduction projects in Japan and other Asian countries.



Niigata University
third year
Ms. Funa Takano

Q2. What did you experience throughout the internship?

I worked on translating "COMMUNITY ASSESSMENT REPORT" on Hinthada Township, Ayeyarwady Region in the Republic of the Union of Myanmar, into Japanese. Through this work, I learned the importance of discussion and surveying with community residents before the project was implemented to visualize the issues and clarify the objectives of it. I believed that we should provide supports which meet the needs of each region based on their diverse cultures and religions, especially in Asia.

Also, I realized that not only Myanmar but also a lot of Asian countries are facing common challenges, such as strengthening local resilience to natural disaster risks and dealing with the contamination of drinking water. In conclusion, I could gain new insights that we need to provide comprehensive supports which include technical and educational assistance and raising awareness of disaster and sanitation issues among residents, to help them to maintain safe communities by themselves.

Through the internship, I also could improve my skills to translate English into natural Japanese.

Q3. What is your plan after the internship?

I am majoring in architecture. I am planning to go to graduate school after graduation. I have been thinking about working on urban development to preserve historical structures and improve the landscape by communicating with residents and the government. After the internship, however, in developing countries, we need a qualitative and quantitative approach to improve communities, such as the analysis of mathematical data and creating systems to enhance disaster resilience.

I would like to study disaster mechanisms and the reduction technologies, focusing on Asia that is facing multi-hazard risk. I will keep studying architecture as well as infrastructure development and water quality management to be an expert with a wide range of knowledge.

(The article is copied as is.)

Apply for internship

If you are interested in SEEDS Asia's internship program, contact us from following email address.

rep@seedsasia.org